

4年に一度、ラグビー界最大の祭典

RUGBY

世界一をニッポンで。

WORLD CUP 2019



アジア初!

2019年9月~10月
ラグビーワールドカップが

日本にやってくる



RUGBY:FOR ALL

「ノーサイドの精神」を、日本へ、世界へ。

財団法人 日本ラグビーフットボール協会

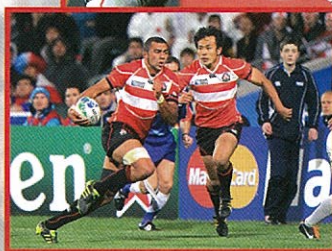
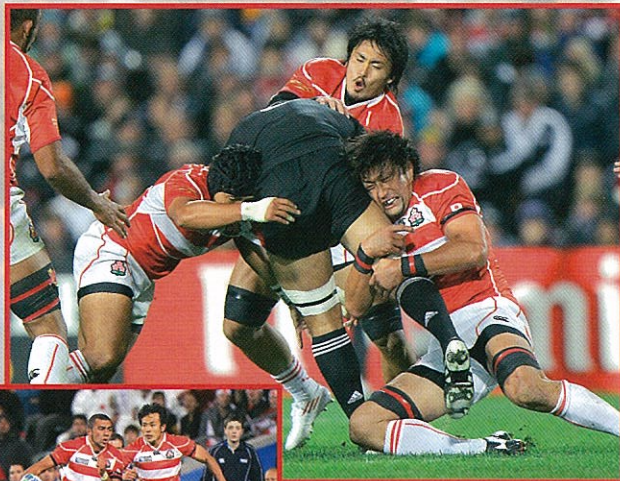


スポーツ振興くじ助成事業

RUGBY WORLD CUP 2019

活力ある日本、スポーツ大国・日本へ！ 世界の三大スポーツイベントが国民の心を一つに

ラグビーワールドカップは、その大会規模でオリンピック、サッカーに次ぐ世界の三大スポーツイベントに数えられています。2007年フランス大会では、20チームが参加し、全48試合で225万人の観客を動員しました。日本代表は過去6大会に出場し、フランス大会ではフィジー、カナダと大接戦を繰り広げて世界から高い評価を受けました。その延長線上に2019年大会日本開催があります。2016年、2020年夏期オリンピックでは男女7人制ラグビーが正式種目として採用されることが決まっており、今やラグビーはグローバル化の一途をたどっています。2019年大会では、世界最高レベルのプレーを観戦し、世界各国の人々と交流することができます。未来の日本を背負う子供達も大いに刺激を受けることでしょう。スポーツ界屈指の祭典「ラグビーワールドカップ」は国民の心を一つにする絶好の機会なのです。



日本ラグビーの誇り ノーサイドの精神をアジアへ、世界へ！

ラグビーの特徴を表す「ノーサイド」という言葉は、試合終了を意味すると同時に「試合が終われば敵味方なく互いに友情を育む」というラグビー文化そのものを表す言葉でもあります。実は、古いルール用語であるこの言葉を独自に解釈し、語り継いできたのは日本だけです。しかし、そのことが今では日本ラグビーの誇りです。試合後は、「アフターマッチファンクション」という選手同士の交歓会が行われるのもラグビー文化の一つ。これらを日本ラグビーは大切にしてきました。今こそ、世界の人々とノーサイド精神を分かち合い、子供達に夢を与え、平和な地球を実現するための「心」のあり方を問いかけていきたい。日本でのラグビーワールドカップには、そんな願いも込められています。



ホスト国・ 優勝国一覽

1987年	ニュージーランド・オーストラリア共催	ニュージーランド
1991年	イングランド	オーストラリア
1995年	南アフリカ共和国	南アフリカ
1999年	ウェールズ	オーストラリア
2003年	オーストラリア	イングランド
2007年	フランス	南アフリカ
2011年	ニュージーランド	ニュージーランド
2015年	イングランド	
2019年	日本	